

～今年の秋一番は槍・穂高を借景に北ア深奥の高地歩き～

新穂高～鏡池～双六岳

実施日 2022年9月30日(金)～10月2日(日)

天候 晴

リーダー 宮崎 敏男

参加者 宮崎敏男、佐藤聡美 計2名

費用 電車(新宿・新穂高往復)17,000

～20,000(プレミアム)／鏡平山荘、

双六小屋 各13,000円(2食付)

タイム 前夜23時新宿発電車～新穂高

駅着6時

9/30 新穂高駅(6:30・1h)笠

新道登山口(20m)ワサ

ビ平小屋(20m)小池新

道登山口(1h10m)秩父

沢出合い(1h15m)シシ

ウドヶ原(1h)鏡池・鏡

平山荘13時5分到着

※昼食・休憩1h30m

10/1 鏡平山荘(6:00・1h)弓

折乗越・分岐(1h)双六

小屋(宿泊手続・デポ

して出発9:00(1h30m)

双六岳(山頂の憩い&

昼食)双六岳下山(1h)

双六小屋(13時15分)

※昼食・休憩1h45m

10/2 双六小屋(発5時・1h5m)

弓折乗越(40m)鏡平山

荘(40m)シシウドが原

(50m)秩父沢出合い(40

m)小池新道登山口(20

m)ワサビ平小屋(15m)

笠新道登山口(45m)新

穂高(12時45分帰着・昼

食・休憩2h25m)ホテル

穂高・温泉(13～14時)

新穂高駅(15時・直通バ

スで新宿へ帰京)

データ 9/30 5h5m・10/1 4h30m・

10/2 5h10m 計14h45m

距離29km 標高差±2,384m

【9月29日】 新型コロナウイルス感染症が蔓延後、北アルプスから足が遠のき無念の思いを抱き続けていた方はきっと他にも多い事だろう。終息の流れが見られるこの秋、北アのシンボル槍・穂高のふところに身を寄せ、その息吹が感じられる山旅、2泊3日のマイ・ベストルートに向かうこととした。

新宿23時発新穂高行き山バス。二十歳前23時45分発松本行普通列車に行列乗車して、身を心を山へと運んだことを彷彿とさせる。

今回参加の佐藤聡美さんはプレミアムバス。俺は普通バス。しまった！バスにそんなものがあつたのか。

【9月30日】到着した新穂高は、笠ヶ岳に連なる岩稜壁がモルゲンロートに染まり私たちを迎えてくれた。

新穂高からしばらくは左俣谷林道を進む。林道歩きはイヤだという人もあるが、北アへのアップになるし、笠新道登山口の湧き水はうまい、ワサビ平小屋前のベンチの一服もイイものだ。

槍ヶ岳登山口を右に分け、小池新道の登山道が始まる。ゴロゴロ岩がとてもきれいに並べられ歩きやすい。程ほどなくしてナナカマドの実がスッカリ赤いその枝葉の奥、槍の穂先が青空の中に姿を見せていた。北アに来たなと感じる。

それにしてもこの快晴、葉影越しの道は涼しいが、段々汗ばんできた。

下山後、山の大先輩が「夏から秋



にかけての今年一番の奇跡の3日間」と言った好天気の始まりだ。秩父沢の清流がうれしい。

「秩父沢出合」のあと「イタドリヶ原」、「シシウドヶ原」とそれぞれ1h～1.25hの区間のをこなした。

さあ最後の区間だ。ここまで4時間の登りが久しぶりの山行の足に気持ちいい（嘘です）

突然山が開けたと思うやそこは槍ヶ岳・大喰岳・中岳・南岳と北穂岳から続く穂高連峰の大パノラマの絶好の展望地（と山と高原地図にある・本当だ）が現れたウッドデッキの展望台が私たちを迎えてくれた。

今回参加の佐藤さん、1人だけですが



どうしますかと確認したところ「憧れの鏡平に行きたい」「双六岳から槍ヶ岳に伸びた滑走路・一本の道を歩きたい」との強い想いでした。その佐藤さんこの地に至り登山顔が恋する乙女のような顔に！しかし初めてここに現れた人は皆同じ、だって皆さん山が恋人だから。

鏡平山荘は、設備も食事も応対もしっかりしていて気持ちいい。おすすめです。

ここでは部屋の窓からも、山荘前のテラスからも、満天の星空の下でもいつも槍と穂高が一緒でした。

【10月1日】今日は双六、三俣蓮華の頂を目指し、双六小屋泊りだ。

AM4時半1番シフトの朝食。小屋から弓折乗越までは急な登りだが谷を挟んでドンと槍ヶ岳が聳えパワーが背中を押してくれる。

と突然槍の肩から閃光が走り私たちに降り注ぐ。誰もいない深山で私達だけが・神々しいゾーンに置かれたようだ。ダイヤモンド槍という言葉を超えた何かがあった。



下山の一人山ガールさん、上の花見平で見たけどダイヤモンドでは無

かったと、そして双六小屋の朝のカフェ・ケーキ付きが良かったとの情報！花より団子は山でも同じ。

弓折乗越から左に行けば笠ヶ岳。双六岳は右へ快適な稜線歩き。ほどなく双六小屋が遠くに見えてきた。山に囲まれ、池を前にした立地で屋根とテントの色が朝陽に映えている。

双六小屋に荷をデポして宿泊手続きも済ませ、軽身で二座を目指す。でも先ほどのカフェ情報が気になる。小屋ガールさん「おいしい珈琲5分で淹れられますよ！」5分後、キャラメルシロップアップルパイケーキとコーヒータラス席に。登山前のカフェも良いものだ。登山は常に余裕を。

登山口からの急な登りのあとは緩やかな頂上へと続く長い真直ぐな、一步道。

滑走路のような、ヨーロッパの巡礼の道のような道。地平線からは槍・穂高の険しい岩山の先端だけが飛び



出している。こんな高山台地が日本にあるとは知らなかった。佐藤さん「ブラタモリで取り上

げ欲しい」本当！どうして出来たのだろう。タモリさんここまで来れるかな？

双六岳山頂に立つ。目眩(めくるめ)く日本の名山の峰々が連なる。

鷲羽山(2924m)水晶岳(2927m)野口五郎岳(2924m)三俣蓮華岳(2841m)黒部五郎岳(2839m)薬師岳(2926m)笠ヶ岳(2898m)立山(3015m)常念岳(2857m)大天井岳(2921m)燕岳(2726m)槍ヶ岳(3180m)奥穂岳(3190m)とその連峰。

今日は好天気で全部見え超ラッキー。



大体3回目位で見られるらしい。素晴らしい時は過ぎゆく。昼食も取らね

ばと気もそぞろに飯支度。目の端を何かか…。雲か？霧か？黒部五郎方面から沸き立った雲がみるみる湧き上がってくる。時刻は正午、好天気も山の気象に変化はつきもの。

三俣蓮華岳もすっかり雲に覆われてしまった。ここまでしっかりと山々を鳥瞰し、アプリを持っている人に教えられ山座同定したので、三俣蓮華岳は中止して下山することとした。



下山時、巻き道分岐で若者から山頂からの様子を聞かれた。双六は明日、黒岳の帰りに行きますと巻道を彼方の霧の中へと若者は消えて行った。気を付けて！

早く小屋に帰ったので明日の支度を早めに済ませ、テラスで時を過ごす。ビールが旨い。

ところが霧はここまで降りて私達を冷気で包む。手が歯がカタカタガチガチ。でもやっぱりビールは旨い！とやせ我慢。

【10月2日】今日は一気に高度差2000mの下山。足や膝を気にしなければいけない年頃だ。急がずナイス・マイペースで、足もと注意し、水分・休憩忘れるなダ！

朝5時小屋出発。早朝の冷気、霜が降り池が氷結している。あと半月で小屋も閉じるとか冬はもうすぐだ。西鎌尾根から夜が明け初め、槍のシルエットを横目の稜線歩き花見平ま

では行けるかな。花見平着。光の花が、黄金色の光がシャワーの如く槍の肩から降り注いでくる。佐藤さんはパワーをもらったと喜んでいる。確かに写真の佐藤さんは光の中に姿が溶け込んでいる。

鏡平山荘で槍・穂高のパノラマとはお別れだ、しばし別れを惜しみ、さあ下山だ。高度を下げて行くにつれ気温も上がり汗と渇きが疲れを誘う。秩父沢出合いの日蔭の川沿いで昼食。体も冷やしラスト2時間。ワサビ平小屋到着は嬉しいコーラ500mlの一気飲み。

新穂高駅12時45分下山。ホテル穂高の温泉にゆっくり入ろう。この温泉は湯も露天も最高。あとは直行バスで帰るだけ。

参加者で相棒の佐藤さんお疲れ様。山行は満足ゆくものだったでしょうか。

(記&写真・宮崎 敏男)

《鏡平、双六岳山行に参加して》

(佐藤 聡美)

天候に恵まれ、右に左に槍ヶ岳をはじめ穂高の山々が連なり、焼岳と続き、乗鞍、御嶽まで見える山々の絶景のなかを歩くことができました。

流石、槍は天高く聳え立ち大きく感じられ、行きに帰りに槍ダイアモンドサンシャワーを浴びながら稜線を歩けたのは最高でした！

憧れの鏡平、双六岳の槍への滑走路の雄大な景色、鷲羽、三俣蓮華への山の連なり、途中雷鳥にも出会い思い出深い充実した山行となりました。

久しぶりの北アルプスを堪能でき楽しかったです！

思いのほか暖かく紅葉？はありませんでしたが無理なく登る事もできリーダーに感謝しています。有難うございました。